

教科	科目	必修・選択	履修条件	単位数	開講学習期間
商業	簿記	選択	なし	4単位	1・2・3
開講曜日	開講時間数	必要時間数	必要一斉時間数	テスト回数	レポート枚数
日曜	21時間	8時間	5時間	3回	12枚

科目紹介と履修上のアドバイス

商店や会社などの企業は、商品を仕入れたり、販売したり、また、広告宣伝を行ったり、従業員に給料を支払うなど、さまざまな活動を行っています。「簿記」とは、このような活動について一定のルールに従って帳簿に記録したり、計算したり整理したりする技術のことをいいます。この記録がきちんと行われていないと、いったいいくら儲かったのか、また、どのくらい財産を持っているのかが分からなくなってしまいます。簿記の知識は、企業の経済活動を記録するための極めて大切な技術です

簿記の学習は、余裕のある時に長時間勉強するといったスタイルは、不向きな学習方法です。一度の学習時間は短くても、毎日コツコツと学習することが大切です。学習教材としての問題集に根気よく取り組むことが、簿記を理解するための最善の方法です。

簿記の学習によって、簿記に関する資格取得も可能です。さらにその資格を生かして一般事務職や税理士などの職業に就くことも可能になります。

教科書	新簿記(実教出版)	学習書	簿記検定問題集(実教出版)
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その仕組みについて学習するとともに、適正な会計処理を行う技術が身についている。	基礎的・基本的な知識をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として、適正に判断し、表現する創造的な能力が身についている。	簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行う実践的な態度が身についている。

面接指導計画

回	学習内容	教科書ページ	レポート	回	学習内容	教科書ページ	レポート
第1回	資産・負債・資本と貸借対照表	1~16	1	第9回	その他の債権・債務、有価証券、本支店会計	118~130 224~228 229~239	9
第2回	収益・費用と損益計算書、取引と勘定	23~37	2	第10回	固定資産、個人企業の資本の取引、販売費、税金の取引	131~166	10
第3回	取引と勘定、仕訳と転記	28~50	3	第11回	決算整理、貸し倒れの見積もり、減価償却	152~180	11
第4回	試算表と精算表	51~61	4	第12回	貸借対照表、損益計算書	178~182	12
テスト	レポートNo.1~No.4			テスト	レポートNo.9~No.12		
第5回	決算	62~72	5				
第6回	現金・預金などの取引	76~88	6				
第7回	商品売買取引	92~104	7				
第8回	掛け取引、手形取引	105~117	8				
テスト	レポートNo.5~No.8						